

令和4年度第1回神戸市子ども・子育て会議「教育・保育部会」

議事要旨

日時：令和4年6月10日（金）10：00～11：30

場所：神戸市役所1号館7階・オンライン

1. 開会

2. 議事

(1) 利用調整基準の改正について

●事務局

資料②により説明（省略）

（質疑なし）

(2) 神戸市子ども・子育て支援事業計画（教育・保育関連事項）の点検・評価と見直しについて

●事務局

資料③により説明（省略）

【「2 1号子どもに関する状況」と「別紙1」について】

○委員

- ・表4の令和5年、令和6年の利用定員の計画値が22,826人と横並びになっている。令和4年の利用者数は、計画値を8,000人も下回っている。令和4年の利用定員の計画値と実績値でも7,000人と大きく下回っているため、この5年、6年の計画値を、令和4年の実績に近い水準に少し見直してはどうか。

●事務局

- ・実態として、利用定員の計画値と利用人数が乖離しており、令和4年の利用定員の計画

値と実績値の差も1,000人程度となっている。民間の幼稚園が定員をどうするのかの情報がない中において、基本的には計画値を横置きとしている。

- ・幼稚園は、それぞれの園の経営方針に基づいて定員を決めることが、基本だと考えている。今回、基本的には、2号・3号のピークが令和4年であるため、2号・3号を中心に量の見直しを考えていたが、コロナ禍において量の見直しについても部会として踏み込むべきだとの考えがあれば、そこも含めて算定を考えたいと考える。

#### ○委員

- ・各園の利用定員の動きは実績値に表れており、令和3年から令和4年も減少している。これからも、利用定員を下げる園が出てくると思う。今後、公立幼稚園の統廃合も考えていると聞いている。
- ・計画値を据え置きすると、実績値よりも1,000人も上回っており、新たに確保していくように見えるが、無理だと考える。既存幼稚園における1号枠の拡大、幼稚園の新設などは非現実的であり、実績値に合わせていく方向で、今回見直しするべきではないか。

#### ●事務局

- ・全体的な1号ニーズの減少のほか、農村地域などを中心に、公立幼稚園は、かなり小規模化している園もある。少子化の流れもあり、一部の園では集団による効果的な幼児教育を行うことが非常に難しい状況になっている。
- ・そのような状況も踏まえ、公立・私立の就学前教育・保育全体における公立幼稚園の役割や在り方を検討することとしている。

#### ○委員

- ・計画値が実績値を1,000人下回っていることから、計画値を実績値の水準に合わせるべきである。定員を1,000人増やすということは、100人規模の幼稚園が10園ということなので、あまりにも現実と乖離し過ぎている。

#### ●事務局

- ・将来の計画がどこまで見込めるかは、教育委員会におけるこれからの議論も踏まえるべきと思うが、量の見積もりをした上で、計画値の令和5年、6年について、議論を踏ま

え見直す方向で進めていきたい。

#### ○委員

- ・評価に、「預かり保育のニーズは引き続きあり、幼稚園から認定こども園への移行を積極的に推進する」と書かれている。制度ができて以降、認定こども園への移行はかなり進んでいると思うが、まだ認定こども園に移行される可能性のある幼稚園は、実際にどれぐらいあるというか、まだ残っているのかどうかの現状を、この記載が現実的なかどうかを、伺いたい。

#### ●事務局

- ・毎年予算上でも、1件程度見込んでおり、相談も数件ある。認定こども園への移行は、年々徐々に増えてきている。

#### ○委員

- ・平成27年の新制度移行から時間が経つが、腰の重い施設であっても、「既存施設の幼稚園を認定こども園化して、そこに今就労のニーズが高まりを受けて、2号児、あるいは3号児を早くから受け入れる、そういう施設に幼稚園が転化していかないといけない」と、重い腰をそろそろ上げてきているのが現状である。
- ・年々、移行のハードルが高くなっている。今移行しようとする園は、面積の要件などにより、移行が難しい園である。ただ、面積の課題も、利用定員の見直しや3号の受け入れなど、解決する方法はある。
- ・2号・3号も待機児童が今年ゼロになったが、地域によっては、需給のバランスが異なる。供給過剰地域においては、2号・3号の定員は最低ランクの10人以下しか設定できず、各学年2人ずつ位になる。それでは、認定こども園になる意味があまりない、やめた方が良いという園もある。今は、私立の幼稚園だけではなく、既存の保育園、認定こども園、公立幼稚園も含めて、既存の施設を活用することが望ましい。
- ・先ほど、待機児童がゼロになった一方で、まだ希望する園に入れなかった方が1,000人ほどいると、事務局から説明があった。この児童を、上手に自分のニーズに合ったところに収容していくことを、先に考える方が良い。

- ・より積極的に、頑張って移行していくよう。声も上げていきたい。

### 【「3 2・3号子どもに関する状況」と「別紙2」について】

#### ○委員

- ・表6について、利用者数よりも利用定員の計画値が、1,000人ほど上回っている。利用定員の実績値を見ると、利用者数を上回っているので、待機児童がゼロになった。利用者数が利用定員を下回っており、空きがある施設が出てきているなかで、現在の計画値を維持するということは、確保方策としての新設を推奨することになるのではないかと懸念する。
- ・なお、希望する施設に入れない待機児童とカウントされない児童が1,000人ほどいるとの話だが、それを理由に現在の計画値を維持しておくことも少し危険かと考える。
- ・もう少し計画値を、実績値に近くしてはどうか。地域によっては、まだ確保していくことを考えているようだが、まだ少し高いレベルと考えるが、どうか。

#### ●事務局

- ・待機児童がゼロとなった状況において、基本的には既存施設の活用が、第一だと考えている。その中でどういう形で整備していくかについては、こういった場で検討していくことと考えている。
- ・令和4年度がピークと言っている中において、これから量の見込みが増えていくのか、減っていくのかが大きな議論になる。将来推計を行い、量の見込みを出し、量の見込みに沿ってこういった計画値を検討していく必要があると考えている。
- ・その中で、いわゆる乳幼児の0～2歳の部分と、3～5歳の部分によって、需要が異なる部分があるので、必ずしも数字をそろえきれないところはあるのは、理解いただきたい。
- ・出生数について、神戸市は12,000人水準から、10,000人、今は9,500人に減っている。一方で、直近の令和4年1月から4月だけを見たときに、前年の3年1月から4月と比べると、対前年比で増えている。

令和3年度に生まれた方は、一定コロナショックの影響があったと考えている。どこまで精緻に見込めるかは、難しいが、コロナの影響とかを踏まえ、9,500人がどう着地していくのかについて、コロナの影響などを踏まえる必要がある。

- ・いわゆる育休希望の方が、昨年と今年を比べると50名程度増えており、コロナ禍の影響が若干あるのではないかと考えている。これらも踏まえて、量の算出をし、その量の算出に基づいて定員がどうあるべきかについて、第2回教育・保育部会で議論をお願いしたいと考えている。

○委員

- ・量の見込みの精査をこの中間年で行い、2号・3号を分けて考えてもらいたい。

○委員

- ・小規模保育事業所等の事業者は、数年後にはかなり経営が厳しくなるだろうと考えている。保育所の新設も大変と考えるが、既存施設の空きを活用しつつ、分園整備や保育所の新設などにより需給調整に取り組み、小規模保育事業所の新設は、慎重にされたほうがよい。既存施設の活用を考えている事業者へ、道筋を示すきっかけとなればと考えるが、行政の考えを教えて欲しい。

●事務局

- ・1・2歳児は特定施設希望などにより、保留となっている児童がいるが、3・4・5歳児は何らかの形で入れている状況である。
- ・そういった状況を踏まえて整備をどうしていくのか。分園や、一部で実施している送迎型など、どのような形であれば、今必要としているところを、効率的に、事業者にも過度の負担をかけることなく整備できるかについて、検討していくことが重要だと考えている。
- ・現在の小規模保育事業所等の新設は、送迎ステーションに併設した形、もしくはサテライト型の形で、限定して整備を考えている。

○委員

- ・新制度が始まる前は、多くの幼稚園等で、保育園のように毎日・長時間預かるのではな

くて、就労状況にあわせて、週3日とか、短い時間とか、1歳・2歳の未就園児を預かるような事業が実施されていた。

- ・新制度に移行後は、保護者が、給食もあるし、毎日行けるということで、3号の申込みをするという動きに変わってきている。
- ・毎日でなくてもよい、短い時間でもよいという方に対しては、その就労状況に適した施設を区役所で紹介するようにすれば、解決する部分もあるのではないかと。

#### ●事務局

- ・区役所に保育サービスコーディネーター（SC）を配置している。SCは、公立や私立の保育所、幼稚園だけでなく、認可外の施設も紹介をしている。

### 【「4 総括」について】

#### ○委員

- ・例えば、認定こども園への移行に際して、1号、2号・3号の枠の計画があるから、足かせになっているという趣旨の発言があった。2015年（平成27年）の新制度移行から、約10年の区切りである2025年頃に向けて、保育所や幼稚園から認定こども園に移行するにあたってのルール、現在の仕組みを一旦すべて撤廃したうえで、一緒のルールを再構築していくことを目標に、議論していったらよいのではないかと、個人的に考えている。

#### ●事務局

- ・基本的には、量の見込みをもとに議論することが重要である。継続すること、変えることのメリット・デメリットが色々あることから、多くの事業者にも、理解をいただくということが必要である。
- ・次の計画の見直しも見据え、時間をかけていろんな形で議論を重ね、よりよい保育・教育の環境づくりに向けて皆様と一緒に取り組んでいきたい。

#### ○委員

- ・量の見込みにおいて、地域差が大きくなっていくように考える。丁寧に区域における個々の地域の動向を見ていくことが大事になってくる。

○委員

- ・人数の見込みのところ、本当に地域差があるなと思う。一方で、人口減少、少子化対策をきちんと実施すべきではないのか。

●事務局

- ・指摘いただいたとおり、人口を増やしていくところが、一番大事な話だと考えている。
- ・1つには、出生数を増やしていくということが重要であり、助産師派遣事業の創設など、安心して出産ができる・子育てできる環境づくりに取り組んでいる。
- ・もう1つは、まちとして神戸が選ばれるよう、都心三宮や、垂水駅や西神中央駅などの拠点駅において、駅前の再整備を行い、今の世代の人たちに選ばれるまちづくりに、積極的に取り組んでいる。
- ・引き続きいろいろうご意見をいただきながら、進めてまいりたい。

【「5 今後の取り組みについて」】

○委員

- ・地域の差をどのように見込むかの方法について、「量の見込みの算出について」に、「提供区域により細かいメッシュで、保育ニーズを見極めて検討するなど」との記述がある。ここを説明して欲しい。

●事務局

- ・需給調整にあたっては、提供区域より細かいメッシュで保育ニーズを見極めたいと考えている。区の中でも、地域によって需要が違うことから、定員をどうするか判断においては、当然細かいメッシュで検討する必要がある。一方で、大枠のところについては、あくまで区単位ということで見積もりをしていきたい。

○委員

- ・新制度が始まったころに、市民にも参画してもらい、シンポジウムのことを行い、アンケートを実施し、新制度における政策を一緒に考えた。
- ・中間年であり、広くアンケートを取るのは大変だが、施設整備が一定進んだ現状を踏ま

え、子供の扶養者から、施設のあり方、子育てにかかる必要な助け・支援など、少し掘り起こしてヒアリングするのも必要ではないか。

- ・子供の数が増えないのに保育利用が増えていくのは、裏返せば、1号の幼稚園の子供たちが激減しているということ。公立も私立も幼稚園の経営が、これから大変厳しくなっていく。折角、子供の施設があるわけであり、その施設を活用して、きめ細やかな子育て支援ができるような施策に、是非取り組んでいただきたい。
- ・就労率の上昇を見据えて、量の見込み・定員の確保を行うということだが、そろそろブレーキを踏んでいただいてもいいような時期に来ているのではないか。また、家で子育てを行う世帯への支援という視点が、少し欠けているように考える。

#### ○委員

- ・この子ども・子育て会議が始まったときには、地域の子育ては、例えば地域の主任児童委員や先輩ママが、お母さんたちと一緒に子育てをする、本当の意味での地域住民による子育てのコミュニティーがあった。制度が充実するにつれて、今は地域から子供が消えていって、施設の中に全部入ってしまっている。
- ・従前より、待機児童に怯えないで欲しいと言ってきたが、ハード（建物）にお金をかけるのではなく、既存の施設を活用してソフト施策を実施するために必要な経費を確保するという観点で、少し予算の使い方を一回大幅に検討していただきたい。

#### ●事務局

- ・少子化のなかで、「子供の数をどうやって増やしていくか」、教育・保育施設に通っている子供たちだけではないので、「地域の子供たちをどうして支援していくか」、既に地域にある保育所や幼稚園や認定こども園、新たな担い手としてNPOにどう協力をいただき、地域の子育て支援について、しっかりと考えていく必要があると思う。
- ・こべっこランド、親子ふらっと広場、こべっこあそびひろばなどの「こどもの遊び場」を整備するとともに、その場を活用して子育ての相談に応じている。未就園児に対してどういったことができるのかというのを、しっかりと考えていきたい。



○委員

- ・本日の貴重な意見を踏まえ、事務局にて令和5・6年度の量の見込みを算出してもらい、次の部会で示してもらいたいと思う。次回は、出していただいた量の見込みを踏まえ、必要な確保方策を検討することにしたい。